

令和4年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長 宮下友美恵

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

- 1 幼児期の発達段階に即した教育環境を整え、子どもたちの自発的な活動をもとにして、生き生きとした意欲的な子どもを育てる。
- 2 楽しく豊かな生活経験を通して、個性に応じたそれぞれの能力の芽生えを伸ばし、健康的で明るい子どもを育てる。
- 3 様々な表現活動を通して、豊かな心と創造性の芽生えを育てる。

2 本年度の重点目標

- ・豊かな体験を通して、子どもの資質・能力を育む
- ・子どもの健康・安全を守る
- ・環境構成や教師のかかわりを見直し、保育の質を高める

3 評価項目に対する自己評価及び学校関係者評価結果

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取組による成果	評価	意見
遊びや行事等の様々な体験を通して、子どもの資質・能力を育む	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの思いや発想を大事にしなが、やりたいことにじっくり取り組めるような環境を整えたり、一人一人が気づいたことや発見したことに教師が共感し、まわりの友達に伝えていくような援助を心がけた。 ・結果を重視するのではなく、子どもが試行錯誤しながら遊びを進めるプロセスを大切にし、その中でどのような力が育っているのかということ教師間で話し合い、次の日のねらいや環境構成に生かすようにした。 ・昨年できなかった劇の発表会では、自分を表現することやクラスみんなでひとつの劇を作りあげていく喜びが味わえるような援助を心がけた。 ・出会い・発見・創造展では、子ども同士で話し合う時間や工夫しながら作ったり描いたりする時間をたっぷりとり、その世界に浸って遊ぶ経験を大切にしました。出会い・発見・創造展ニュースやしおりを通して保護者にも子どもたちの育ちを伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分の思いや発想を自信をもって出す姿が見られるとともに、友達の考えのよさにも気づくことができた。 ・教職員間で子どもの育ちについて協議することで、その時期に大切にしたい経験や課題が捉えられるようになった。 ・異年齢で遊ぶ体験と同年齢で遊ぶ体験では、子どもの育つ部分の違いが見られるが、それをしっかりと理解したうえで、指導計画を立てていく必要性を感じた。 ・劇遊びでは自分を表現する喜びや友達と同じ目標に向かって協同する楽しさ、充実感を味わうことができた。また、出会い・発見・創造展の行事を通して、それまで育ってきた力をそれぞれが発揮することができた。 ・七夕、もちつき等の季節の行事については、より子どもの育ちにつながるような工夫をしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年できなかった劇遊びができたことは、子どもたちにとって大変よい経験となった。劇を作っていく過程の中で、子どもたちが自分で振付を考えたとき、生き生きと演じる姿のなかに、そのらしさが表現されているように感じた。 ・出会い・発見・創造展を見学したが、子どもの夢が溢れていて、その世界に浸って遊ぶ体験は、子どもの育ちに大きく影響すると思う。 ・子どもたちの思いやイメージは、はじめのうちは漠然としたものだと思うが、それを形にしていくのには、先生たちの援助が大事で、それを適切にしてくれていることが素晴らしいと思う。 ・教師間で話し合うことで、その時期に大切にしたい経験や課題が捉えられたことはとても評価できる。 ・月に一度担任の先生が書いてくれる「歩むノート」は、わが子の成長がわかりとても楽しみにしている。
子どもの健康・安全を守るための対策を園全体で行う	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対する最新の情報や、その時々感染状況の把握に努め、園医や保健所と相談しながら園全体で共通理解して対応した。 ・手洗いうがい、手指の消毒、検温の指導を継続して行ったり、換気を十分にするようにした。検温カードが未記入の家庭には、朝連絡をとり、確認するようにした。 ・誕生会、出会い・発見・創造展、ありがとうの会等の内容や方法を検討し、参加者を分散させたり、検温、消毒を徹底するなどして取り組んだ。 ・事故防止マニュアルの見直しを行い、全教職員でその内容を共有して安全対策に努めた。 ・地震等の非常時が起きたときの備蓄物 	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体で協力して感染対策を実施し感染拡大を抑えることはできたが、感染者に関する公表の仕方については、保護者の考え方に大きな差があった。 ・子どもが自発的に手洗い、うがいをするようになり、風邪やインフルエンザ、その他の感染症も大幅に減少した。 ・様々な行事の過程や実施方法を検討し、感染対策を行うことで、昨年度まで開催することのできなかった「ありがとうの会」も無事に実施できた。 ・朝の出欠席の把握や園外保育時の人員点呼の徹底、遊具の安全点検、 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応は、先生たちにとって大変ストレスのかかるものであったと思う。そのような中で、様々な工夫をしながら行事を実施してもらえたことで、子どもたちの成長する機会を作ってもらえたこと感謝している。 ・令和4年度は県内で大きな事故があり、先生たちも緊張が続いたことと思う。このようなことが起こると、マニュアルのことが話題になるが、マニュアルに書けないようなことが本当は大事で、豊田幼稚園ではそのこともよく理解していて、先生同士が気になったことは小さいことでも伝え合い、注意喚起し合っていて、とても信頼できる。

		を定期的に点検し、整備した。	避難訓練等を継続的に実施し、常に複数の目で子どもを見守ることで、子どもたちの安全を守ることができた。		・子どもの健康・安全を守るために、振り返りを続けることは、とても大切だと思うので、これからも変わらず続けてほしい。
環境構成や教師のかかわりを見直し、保育の質を高める	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国立教育政策研究所 プロジェクト研究の協力園として、「幼児教育における保育実践の質評価スケール」「保育プロセスの質評価スケール」「保育環境評価スケール」等の評価スケールを使って、保育環境や教師のかかわりについて見直しを行った。 ・遊びの環境、生活の環境、保育室内の掲示、子どもへのかかわり方等について、教師間で話し合い、改善に努めた。 ・戸外の遊びの環境について保育者がグループを作って改善を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な評価スケールを用いて、現在の保育環境や子どもたちへのかかわりを評価し、見直すことで、生活しやすい環境になったり、より遊びが深まったりした。 ・子どもたちが遊びの中で気付いたり、発見したりしたことを集めた「はっけんずかん」を手作りし、子どもたちが自由に見ることができるようにしたことで、知的好奇心が高まった。 ・行事への準備等があり、年間を通して定期的に改善のための話し合いをすることが難しかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な評価スケールを使って、丁寧に環境や教師のかかわりを見直したことは、とても評価できる。 ・プロジェクト研究の協力園となったことは大変だったと思うが、協力園に選ばれたということ自体が、保育の質向上に日頃から努めていることの表れだと思う。

評価（A…十分に成果があった B…少し成果があった C…成果がなかった）

4 来年度取り組むべき課題

- ・豊かな体験を通して、子どもの資質・能力を育む（教育課程の見直し）
- ・子どもの学びをつなぐ幼小接続
- ・地域の子育ての支援

5 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。